

令和7年度新潟県立阿賀黎明高等学校第2回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和7年10月21日（火）13時30分～15時30分

2 会場

阿賀黎明高校 多目的ホール

3 参加者

委員5名

県教育委員会2名

（オブザーバー参加）

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者3名
- ・阿賀町教育委員会学校教育課職員2名
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者2名
- ・阿賀黎明高校教職員1名

計15名

4 次第及び概要

（1）開会 校長挨拶（斎藤校長）

新潟県「教育月報」9月号に、6月の「地域とともにある学校づくり研修会」において国立教育政策研究所 志々田 まなみ 氏から示された「学校運営協議会のチェックポイント」が掲載されていた。そこで示された視点を踏まえて、本校の学校運営協議会においても内容の改善を図っていきたい。

（2）会長挨拶（遠藤会長）

本協議会は、時間は限られているが、阿賀黎明高校の運営をよりよくし、生徒のより一層の成長を支えるため、活発な議論をお願いしたい。

（3）阿賀黎明高等学校の状況等

① 令和7年度の課題と取組の進捗について（斎藤校長）

- 令和7年度これまでの状況（在籍状況、生徒指導、学校行事、部活動、進路状況）
- 令和7年度の課題と取組の進捗
 - ・生徒募集（阿賀町内中学校へ募集活動、隣接地域の中学校への説明・案内配付、地域みらい留学募集活動）
 - ・阿賀津川中学校との中高連携の推進
 - ・ボート部の存続
 - ・地域探究活動の一層の推進

- ・生徒の学力差への対応
 - ・教育相談や特別支援教育への対応
- (補足) 生徒の具体的な状況 (長谷川教頭)
- ◎ 生徒数が極めて少ない小規模校として、どのように教育活動を充実させていくかが課題
- ② 令和7年度の地域と連携した教育活動の進捗について (黎明学舎 加藤講師)
- ア 総合的な探究の時間 (阿賀町さいこうプロジェクト) (主な内容)
- 【1年生】「福祉体験」の実施
- 【2年生】プロジェクト活動及び発表会の実施
- 【3年生】発表会の実施、進路実現に向けた取組
- イ 学校設定教科「地域学」(主な内容)
- 【2年生】・小出和紙や雪椿を導入とし、紙すきや草木染めを盛り込んだ企画の立案、実施、発表
 - ・阿賀津川中学校1年生との中高連携 (4回実施済み)
- 【3年生】町の資源・課題を活用した企画の立案、実施、発表
- ウ 家庭科 (主な内容)
- 【家庭基礎(1年生)】総合的な探究の時間と連動した「福祉体験」
- 【フードデザイン(2年生)】地域の郷土料理や特産物を活かした献立考案、実習
- ③ 令和8年度の地域みらい留学生募集活動の進捗について (西田コーディネーター)
- まなび体験会 (現地開催) 4回実施 (7~10月)
計21名が申込 (複数回の申込者は重複してカウントしていない)
まなび体験会以外の現地見学は、希望者なし
- オンライン高校留学フェス 3回実施 (5、7、8月)
約90名が参加
- 東京対面説明会 1回実施 (6月)
ブースでの対応数は26件
- オンライン高校別説明会 5回実施 (5~9月)
計10名が参加
- ◎ オンライン説明会、東京対面説明会の参加者が、昨年度より減少した。県内中学校への学校案内等の配付の効果があり、県内中学校からのまなび体験会参加者が増加した。
- ④ 質疑応答・意見交換
- (猪俣副会長・質問) 地域みらい留学生募集について、令和8年度は希望者が減少する見込みであるのか。企業の採用においても、近年、オンライン説明会の参加者は減少しており、SNSでの発信や現地見学の方が効果はあると感じている。
→ (西田コーディネーター) まなび体験会の参加者は減少していないため、例年

どおり 10 名程度の申込があるのではないかと予想している。現在、申込を受け付けており、締切は 11 月 10 日(月)である。

- (猪俣副会長・質問) 地域みらい留学生の募集方法の改善策はあるか。
→ (西田コーディネーター) 学校説明会等の案内については、地域・教育魅力化プラットフォームのウェブページに頼るだけでなく、学校独自ホームページや阿賀黎明高校魅力化プロジェクトのウェブページのほか、SNSでの積極的な発信も進めていきたい。
- (清田委員・質問) 自分は阿賀黎明パートナーズの一員でもあるが、今年度、探究学習に関わることがほとんどできていない。阿賀黎明高校の探究学習が軌道に乗ったということであれば、それは喜ばしいことではあるが、今後、協力できる機会はあるか。
→ (加藤講師) 今年度、学校設定教科「地域学」の指導方法等の見直しを行っており、来年度以降、整理し直した計画で授業を実施していく予定である。「地域学」の運営に阿賀黎明パートナーズや地域の方々からどのように関わってもらうかという視点も踏まえて、指導方法等を検討、計画していきたいと考えている。
- (清田委員・質問) 9 月 20 日(土)に開催された、町内の中学生の「保護者対象学校説明会」は参加者が少なかったと聞いた。どのような内容を説明したのか。来年度以降も開催するのであれば、参加者を増やす方策はないのか。来年度以降も一緒に PR をしていきたい。
→ (斎藤校長) 説明会では、本校の紹介だけでなく、高校生活全般について触れた。現代の高校生は非常に忙しいため、通学時間は高校選びの大きな要素になるということや、高校で体系的な探究学習に触れることができる環境にあることが、その後の進路実現につながるということを話の中に盛り込んだ。事前に思いつく限りの周知方法は試したところであるが、多くの参加者を集めることができなかつた。来年度以降も開催したいと考えているため、周知方法のよいアイデアがあれば伺いたい。
- (西田コーディネーター・意見) 保護者を対象とする説明会については、阿賀黎明高校への入学を希望していない生徒の家庭でも気軽に参加できるような工夫が必要である。
- (遠藤会長・意見) 「保護者対象学校説明会」に同席して、終了後に感想を聞いたが、参加した保護者は満足度が高かった。現状、一度入学した高校を続けることができずに進路変更する生徒が一定数いることも事実であり、阿賀町教育委員会として「阿賀町 15 年教育」を進める上でも、説明会での斎藤校長の話は、町内の全家庭に聞いてほしいと感じた。今後、説明の動画を配信することを検討したいと考えている。
- (猪俣副会長・意見) 阿賀町の住民が、阿賀黎明高校の取組やよさを知らないのではないかと思う。中学生の保護者に限らず、子育てが終わった世代の町民にも、阿賀黎明高校の活動を知ってもらう必要があると考える。

- （清田委員・意見）学校の活動を知つてもらう手段として、SNSの活用、その中でも短い動画をアップロードすることが、現代においては有効なのではないか。
- （石川委員・意見）中学校1、2年生を対象とした説明会の開催が必要ではないか。
- （西田コーディネーター・意見）まなび体験会は、これまで中学生対象としてきたが、中学生に限定せず、広く希望を募ることを検討したい。

(4) 指導・助言（齋藤指導主事）

- 質疑応答・意見交換を踏まえ、2点お話ししたい。
- 1点目は、小規模校としての授業のあり方である。現在も、生徒一人一人に対して丁寧に指導していると承知しているが、ICTを活用しながら、個別最適化の視点を持った授業デザインが今後一層必要である。
- 2点目は、広報活動である。これまでの学校PRのターゲットは中学生とその保護者であったかと思うが、就学前の子どもを持つ保護者にも、高校選びに関心を持っている方がいるという現実がある。一方で、子育てが終わった世代にも、地元の高校の教育活動に関心を寄せている方がいる。探究活動への協力を得るという面からも、より幅広い層から高校に目を向けてもらえるようにPRすることが重要である。

(5) 熟議（進行：西田コーディネーター）

テーマ「高校魅力化評価システムをふまえた阿賀黎明高等学校の学校運営における評価の重点項目について」

- ① 高校魅力化評価システムについての説明
- ② 個人ワーク：生徒アンケートの「生徒の自己認識」に関わる項目の中で、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」のそれぞれから、重点であると考えるものを選ぶ。
- ③ グループワーク：②で選んだ項目を共有し、学校としてどの項目を重点とするか検討する。

(6) 閉会の挨拶（猪俣副会長）

今回の熟議においては、生徒アンケートの重点としたい項目として、「自分にはよいところがあると思う」が多く選ばれていた。自己肯定感をもつ必要があるということは大人も同じであり、地域が阿賀黎明高校に対する肯定感を持つことが大切である。学校には、ぜひ個別の学習支援を進めてもらいたいところであり、募集活動についても、小規模校のよさを生かし、一人一人のニーズに合わせた取組を行ってほしい。本協議会では、今回も新たな気づきがあり、大変有意義であった。